

# 平成28年度 伊那市立高遠小学校評価表

学校関係者評価；(A：十分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった) 自己(項目間相対を加味した到達度)評価 (a：十分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった)

学校教育目標	重点目標(中長期的目標)
◎教育理念 ◇学即得(高遠の学)の継承と発展 ◇実学を尊び、知行合一を目指す  ◎学校教育目標 清らかで 美しく やさしく たくましい  高遠の子ら	自分の考え・思いを表現し仲間と共に高め合っていく子どもの育成
	今年度の重点目標
	(1) 自ら学び続ける子【知】
	(2) 相手の気持ちを考えて行う子【徳】
(3) 体を鍛え、身を守る子【体】	
(4) 美しくよりよいものを求める子【美】	

総合評価		
○中心的な願い実現の手立てがたくさんありすぎて(あれもこれもすべて網羅)何を中心にやっていくのか共通認識できていない。より具体的な目標にしぼり、より具体的な施策を考え、みんなで取り組んでいきたい。 ○あいさつ、自己表現力、学びあい、自尊感情を高める等、ねらいによって、学習スタイルや発表の仕方など工夫していきたい。		
成果と課題	評価	改善策・向上策
○家庭や学校で何らかの学習をしようとする児童は育ってきているが、まだまだレベルアップできると思う。 ○課題に向かって、解こうという姿勢がついた。課題が明確であったり、自分たちの活動に必要な場面では、意欲的に追求できる。	B b	○児童が体験を通し、本気になって取り組める学習場面に出来るような学習教材とその展開に配慮し、授業改善を図りたい。そのために、学級の年中活動の年間計画を作成する中で、児童の願いに沿った展開となるよう計画段階で十分吟味する。
○時として相手を傷つける言葉や呼び方、態度をすることがある。自分・仲間の頑張りを見つけ認め合える集団になってほしい。 ○特に高学年が、低学年の子に対して思いやる場面が、様々な活動で見られた。	B c	○あいさつを中心に、相手を意識した言動を促す働きかけに力を入れる。 ○職員自らの人権感覚を養う研修を設けるなど、児童に寄り添った児童理解を心がけ、また、小さな変化を見逃さない目と連絡相談し合える関係と場を日常的に設ける。
○普段から運動習慣のある児童にとって毎日運動する機会がある。続けて走ることで頑張ろうとする気持ちも出てきている。 ○朝マラソンで走る子が多くなった。低学年もプレイルームでよく遊んでいる。しかし自主的に鍛える子は少ない。	A a	○チャレンジ運動など学年に合わせて季節に応じた運動を設定するなどの工夫をする。 ○校庭が遠いのが本校の課題。遊びの中で体を動かす機会が増えるように、日課を変更する中で休み時間に余裕を持たせるようにする。 ○体力テストを全校で実施し、その結果を踏まえて遊びに生かせる運動を提案する。
○県美研の公開や音楽会など、美しさを求めた活動が実を結んだように感じる。 ○学校目標の「美しく」の具体的な姿が共通認識できていない。	B b	○集会などでごみが廊下に落ちていることが少ないなど普段自分たちがやっていることを評価しあう場を設定する。

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育課程	教育課程	ふるさと高遠に学ぶ	○高遠町の自然や歴史・伝統文化や人に触れる体験的な学習活動を位置づけ、子どもたちに、自分で考え・行動し・表現する力が育っているか。またふるさとを愛する心が育っているか。
		心豊かな子どもを育む	○朝読書や毎朝継続して行う学級の歌声作りで、子どもたちが落ち着いた雰囲気の中から一日をスタートさせることや、音楽の楽しさを味わう全校音楽を通して心豊かな子どもの育成につながっているか。 ○施設内外の安全点検、学びや学習活動の足跡などの掲示の工夫、日常的な整理整頓などの取り組みによる環境作りにより、子どもの豊かな心の育みにふさわしい学習環境となっているか。 ○「床の磨きは心の輝き」清掃の大切さを理解し、日々の清掃活動に本気で取り組める子どもが育っているか。
	学習指導	分かった、できた喜びを実感し、児童が主役となる授業づくり 基礎基本の定着及び伸びる力を伸ばす場の工夫	○授業の3観点(ねらい、めり、みとどけ)を具現できているか。子どもたちが考えや思いを出し合い、児童が主役となり、仲間と友に高めあう姿がみられるか。また、そのための学習規律や手立て、学習環境が整えられているか。 ○特別に支援を要する児童について、全職員が関わり、児童理解とチーム支援の素早い対応が図られたか。 ○ドリルタイムの充実や授業中のドリルの工夫などが図られ、基礎基本の定着につながったか。また、家庭学習の手引きの活用や、家庭学習と授業との連携などにより児童の基礎学力の定着につながっているか。
生徒指導	生徒指導	児童相互の結びつき	○服装・言葉使い・行動・清掃・時間を守る・人間関係作り等「日常生活が学問の原点」であることが認識され、実践化されているか。 ○なかよし班活動、縦割り清掃班活動の場など縦のつながりを意識した教育活動を通して、子ども同士が支え合い、思いやりの心を育てているか。
		あいさつ運動への取り組み	○あいさつが習慣として身に付き、自分から進んで家族、地域の方、先生、友だちに気持ちの良いあいさつができる子どもが育っているか。
学 校 営	安全	豊かな心・たくましい身体を育む教育の推進	○家庭学習・読書、早寝早起き、テレビ・ゲーム、朝食や運動による規則正しい生活リズムの習慣付けを意識し実践しようという子どもたちの姿が見られるか。 ○マラソン大会、遠足、陸上クラブ、運動会で、自主的な取り組み、粘り強くやり抜こうとする姿、仲間とともに励まし合う姿が見られたか。 ○新体力テストの結果から本校児童の課題を把握し、日常生活の中(日常・始業前・業間・休み時間・体育)に継続的な運動を取り入れる具体策が実践されたか。
		命を尊び安全に留意できる児童	○登下校時の道路歩行・安全・帰宅後の自転車乗りなどについて、子どもに「交通安全教室」「避難訓練」「不審者対応訓練」などが意識され、実践できているか。
	地域連携	授業公開・参観授業・各種行事を通して学校の様子を発信	○総合的な学習の時間、課外活動、行事、教科指導などの学校教育活動全般において、地域の方々に参画していただき教育効果を高めることができたか。 ○PTA総会などでの、校長による学校運営方針の説明や学校要覧、学校便り、学年便り、学級便りの発行等による説明責任を果たし、保護者や地域の方々に学校の様子や児童の実態を理解していただくことで学校教育活動への取り組みに協力が得られているか。
研修	研修	授業改善	○本校研究テーマ「子どもたちが自ら追究する授業の創造」を目指して、記録の累積・小グループ等の学習形態や板書の工夫・教材化・NRT/QU・児童授業アンケートなど客観的なデータの分析と指導の振り返りなどを通して、教師の力量を高め、同僚性を発揮した子どもたちの伸びにつながる授業改善ができたか。
		自己課題	○「自己課題」を大切に自分なりの課題を設定し、教科の特色や児童の実態に応じて学習指導や生徒指導に生かすことができたか。

成果と課題	評価	改善策・向上策
○高遠町の自然や歴史等を知るための活動は各学年で計画的に行われており、教室の中では学べないことを学んでいると思う。特に1年生の中核活動が素晴らしかった。	A a	○限られた学習の中でどう子ども達自身の学習活動としていくのか、教師の幅広い学習材研究と教科との関連をどう図るかなど、児童の自発性や見通し、発展性を持った活動となるように年間学習計画と学級作りの一体化をさらに図る。
○歌声作りという観点でいうと、美しさは感じられる。声量の点でも伸ばし、堂々と歌える児童になってほしい。 ○6年生が1年生に読み聞かせる活動が新鮮だった。" ○黒板の周りに必要以上の掲示をしないことや教室のたなにカーテンを付けるなどのユニバーサルデザインの工夫によってどの子にも配慮された環境作りができた。各クラス、学習の足跡が、工夫して展示しており、見る者にも伝わってくるものがある。	B b	○児童の主體的な読書活動やのびやかな音楽活動となるように、さらに指導の方向を探っていきたい。朝の時間に限らず、国語や音楽の普級の教科の中で、意図的に心情面の育ちに向けた取り組みを行っていく。子ども達にとって豊かな心情を育む掲示のあり方をさらに工夫していきたい。個人差のある清掃への取り組みをどう克服していくかは課題であるが、職員や上級生が行動で範を示して行きたい。
○授業での追究や学習の成果の振り返りや仲間とともに学び合う姿は出てきている。 ○グループを中心に学習を進めることで多くの子どもたちが自信をもって発言できるようになった。 ○互いに連絡を取り合い、情報共有ができていく。時間割、教室など更に工夫が必要。 ○ドリルの時間が少ない。ドリルが週1回だと基礎基本の定着の見届けが甘くなる。 ○NRTや全国学テからも基礎学力の定着が急務	B b	○算数と道徳に焦点を当て授業改善研究を進める。ねらい・めり・振り返りの3観点が位置づいた授業の具現、全国学調やPC調査などから決めだした観点と日々の授業との関連を意識した授業改善、自分の考えと友達の考えを交換しながら共に主体的に深く考え学び合う学習の具現をめざして授業改善に取り組む。 ○特別な支援を必要とする子について、情報共有をしながら、互いにサポートできる状況を継続する。 ○日課を変更しドリルの時間を週3回は位置づけるようにしたい。ドリル内容の系統化も検討できるとよい。
○職員室への出入りを見ると、学年・名前・目的を伝えなくて入ってくる時がある。状況に応じた言葉遣いを意識させたい。 ○友達の名前のよびすぎがとても気になるが、高学年だとなかなか直せない。 ○縦割り班の活動が多いので学年を超えたつながりができつつあるが、名前を覚えていない児童もいるので結びつきは強いとも言えない。縦割り活動の日常化が大切。	B b	○名前の呼び方、状況に応じた言葉遣いについて日常的に意識してとり組む。 ○なかよし班の出会いの場を大切に、関係作りからスタートできるとよい。縦割り清掃をはじめとする活動がマンネリ化しないようにめりを持ち持たせたい。各活動の異年齢集団としてのねらいを明確に据え活動を決めだして行く。
○廊下ですれ違っても声が出ないなど自分から挨拶をする意識が少なく感じる人が多い。あいさつをしてもあいさつを返さない子どももいてとても気になる。 ○児童会の取り組みはよいが、なかなか挨拶が習慣として身につかない。	B c	○現状について、その原因を探りながら、全校の課題としてとり組んでいきたい。 ○あいさつを中心に相手を意識した言動を児童会活動で促したい。あいさつ運動にめりはりをもちたい。
○ノーメディアを初め、各家庭の協力を得ていると思う。ノーテレビ・ノーゲームデーでは、子どもたちが自ら意識している様子が見られた。 ○陸上クラブなどの課外クラブで目標をもって取り組む子どもたちが多かった。大会を通して成就感をもつことができた。 ○朝マラソンの位置づけはむずかしい。カードを作ったことで、自分の走った距離を実感する児童が多かった。 ○体育科の先生の努力で確実に向上している。しかし一部の先生に多くの負担がかかっているのも事実。	A a	○家庭学習のやり方やあり方について、児童・家庭が学校とともに考えることができる週間を設ける。ノーメディアデーの「目標を決め期間を設定し保護者と児童が考えそれを家庭に発信する」やり方に学び、家庭学習の期間を限定し習慣化を図っていく。 ○体力テストに全校体制で取り組む。体力テストはやるだけでなく分析し授業改善にかしたい。体育集会で様々な運動や遊びの啓発を意図的に行う。毎朝の朝マラソンを各自のペースで行うなどの取り組みを行う。
○避難訓練の回数も増え、変化がある。 ○集団登校、下校は期間、回数とも長い。	B b	○避難訓練についてはより実際に即した形での実施を引き続き志向していくことをとおして、児童自身の意識向上をめざす。 ○集団下校を月に1回、年度初めに1週間、学期始めに2日間の集団登校を実施する。 ○本校の特色である「みまもり隊」の活性化の方策を検討する。
○保護者、地域の方に支えられていると強く感じる。 ○学級通信を通して子どもたちのよい姿を発信してきた。子どもたちも通信を楽しみにしている。 ○地域講師など多くの方々からより専門的な内容を学ぶことができた。全てのクラブ活動や、マラソン大会や遠足、読み聞かせ、自学塾など多くのボランティアの方に関わっていただくことができた。音楽会にご招待したり、児童が年賀状を出したりすることで、より学校のことをご理解いただく機会とすることができた。	A a	○風通しのよい学校に向けたこれまでの取り組みを大切にしていこう。内容面について保護者の声を聞いて、学校運営に反映する。また直接保護者の皆さんの声が聞かれる学級懇談会が充実した会になるよう工夫する。 ○信州型コミュニティースクールという観点で各ボランティアの皆さんの活動を再編位置づける。児童・保護者がその活動を理解し感謝の気持ちを持てるようにしたい。
○一人一公開をめざし、各クラスが授業を公開し学び合う事ができた。 ○学年で宿題を同じに定着をはかってきた。宿題を忘れる児童がいなくなり、自由勉強の質の向上も見られるようになった。	A a	○一人一授業公開、学期ごとの児童による授業アンケート、座席表を活用した授業記録などを実施し、一人一人の児童の声を大切に授業改善に努め、児童が主体的に授業に向かう意識向上をさらに目指す。
○授業の内容充実や子どもの姿のみとり方、関連書籍に当たるなどして研修してきた。研究の成果については、年度末「授業改善研究録」として冊子にまとめ、職員間で学び合うことができた。今後も職員相互の日々の学び合いを大切にしたい。	B b	○互いの課題を確認しあう機会を設け、自己課題をもとに互いに気軽に授業を公開し見合う雰囲気をつくっていききたい。 ○得意な分野を互いに伝え合うような研修の機会を設ける。

